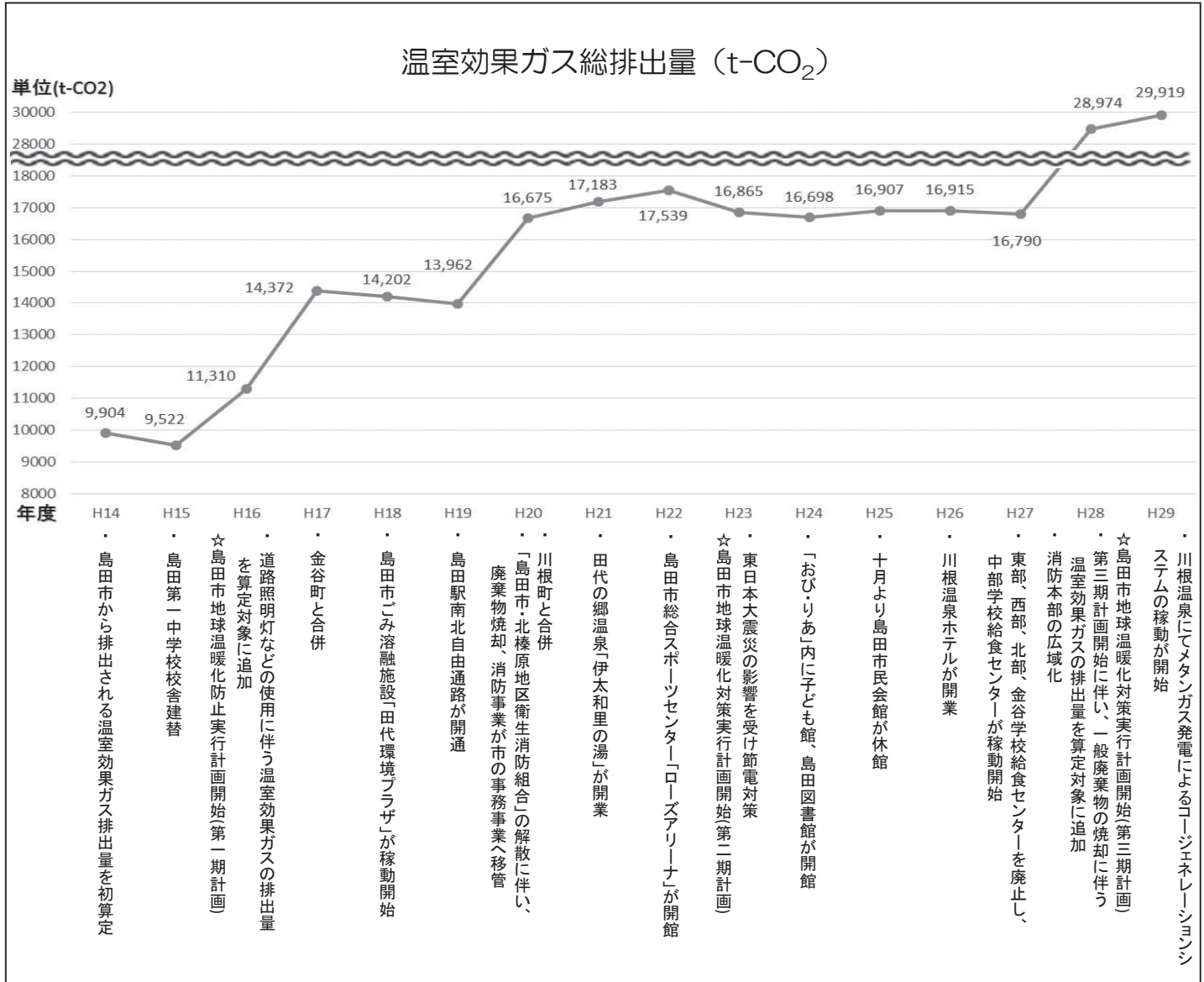


## 第4章 地球温暖化対策実行計画の進捗状況

### 市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量

ここでは、島田市地球温暖化対策実行計画に基づく平成29年度の実績値を報告します。

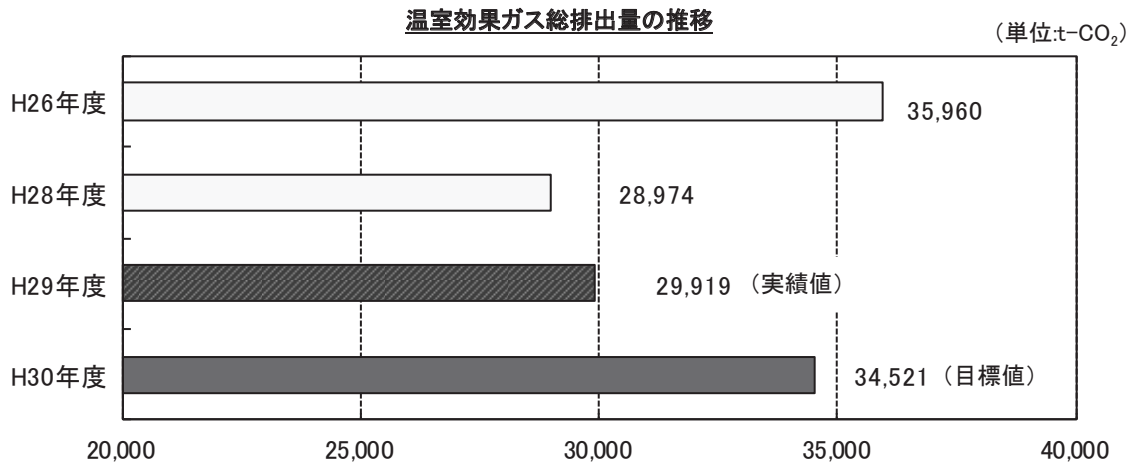
また、これまでに島田市から排出された温室効果ガスの推移については、下記のグラフのとおりです。



#### 1-1 全体目標の進捗状況

- ・ 島田市地球温暖化対策実行計画は、平成28年度から第3期計画が始まりました。第3期計画は、平成28年度から平成30年度までの3年間を計画期間とし、平成26年度を基準年として温室効果ガスを4%削減するという目標を立てています。第3期計画より、一般廃棄物の焼却に伴う温室効果ガスの排出量も含めて算定しています。平成29年度の市役所全体の事務・事業から排出された温室効果ガスの排出量は78ページのとおりとなっています。

項目	基準年度 (H26年度)	平成29年度	目標年(H30年度) 《目標値》
		増減率 (対H26年度比)	目標削減率 (対H26年度比)
温室効果ガス総排出量 (二酸化炭素換算)	35,960 t-CO <sub>2</sub> /年	29,919 t-CO <sub>2</sub> /年	34,521 t-CO <sub>2</sub> /年
		△16.8%	△ 4.0%



・平成29年度の温室効果ガスの排出量は、29,919 t となり、平成26年度比で16.8%の削減となり、目標である4%削減を大きく上回りました。その大きな要因としては、一般廃棄物の焼却に伴う二酸化炭素の排出量が大きく減少したことが挙げられます。ただし、この排出量については、事業者や住民から搬入される焼却物に起因するので、今後も減少傾向にあるか注視する必要があります。また、全体の排出量は平成28年度と比べて少し増加しましたが、電気使用量については大幅な削減が見られました。各取組の詳細については、次項をご覧ください。

・排出された温室効果ガスの種類別内訳をみると、二酸化炭素が全体の約97%を占めています。

**温室効果ガスの種類別排出状況**

(単位:t-CO<sub>2</sub>)

ガス種別	基準年度 (H26年度)	平成29年度	構成比
二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> )	35,026	28,972	96.84%
メタン (CH <sub>4</sub> )	182	252	0.84%
一酸化二窒素 (N <sub>2</sub> O)	748	692	2.31%
ハイドロフルオロカーボン (HFC)	4	3	0.01%
合計	35,960	29,919	100%

※パーフルオロカーボン(PFC)及び六ふっ化硫黄(SF<sub>6</sub>)、三ふっ化硫黄(NF<sub>3</sub>)については、本計画では対象外としている。

## 1-2 個別目標の進捗状況

### 排出活動①：燃料の使用

- ガソリン使用量の約9割は、公用車での使用が占めています。平成29年度の公用車におけるガソリン使用量は、平成28年度と比べてやや増加しました。また、施設所管課が施設の管理・維持のために使用したガソリン使用量も増加したため、ガソリン使用量は全体としても増加した結果となりました。今後も公用車の更新時には低公害車にすることや職員によるエコドライブの推進を図る必要があります。
- 灯油の主な使用施設は、川根温泉（138,120L）及び田代環境プラザ（145,365L）です。平成29年度の使用量は平成28年度と比べて減少しました。特に川根温泉においては、メタンガス発電によるコージェネレーションシステムを稼働させたことにより、およそ29,000Lの削減効果が得られました。
- 軽油の使用量につきましても約9割は、公用車での使用が占めています。使用量は平成28年度のほぼ同量です。軽油についても、低公害車の導入やエコドライブの推進を図る必要があります。
- A重油の主な使用施設は、島田市民病院（646,744L）、クリーンセンター（145,847L）で、全体の約92.7%を占めています。平成29年度は、島田市民病院において使用量が増加したため、平成28年度と比較して増加する結果となりました。
- LPガスの使用量が最も多いのは温泉施設で、田代の郷温泉（61,495m<sup>3</sup>）、川根温泉ホテル（34,414m<sup>3</sup>）、川根温泉（39,233m<sup>3</sup>）の3施設で、全体の約71.6%を占めています。またその他の施設においては、中部学校給食センター（32,038m<sup>3</sup>）の使用量が多くなっており、平成29年度は中部学校給食センターにおいて、約3割の削減ができたので、全体の使用量においても削減となりました。
- 都市ガスの主な使用施設は、島田市民病院（115,225m<sup>3</sup>）、プラザおおるり（38,286m<sup>3</sup>）、保健福祉センター（18,441m<sup>3</sup>）となっています。平成29年度は、プラザおおるりにおいて使用量が増加したため、平成28年度と比較して微増となりました。
- 平成29年度より、川根温泉においてメタンガス発電によるコージェネレーションシステムを稼働させたことにより、これまで大気放出していた天然ガス（主成分はメタン）を使用したため、天然ガス使用量が算定対象となりました。その分、燃料の使用に係る温室効果ガス排出量が増加しました。

項目	単位	基準年度 (H26年度)	将来推計値 ※1	平成29年度	目標年(H30年度) 《目標値》
				増減率 (対将来推計値比)	目標削減率 (対将来推計値比)
ガソリン	L	146,975	114,140	101,947	110,716
				△ 10.7%	△ 3.0%
灯油	L	429,808	396,492	379,452	384,597
				△ 4.3%	△ 3.0%
軽油	L	149,698	134,276	118,759	130,248
				△ 11.6%	△ 3.0%
A重油	L	916,114	872,404	855,041	846,232
				△ 2.0%	△ 3.0%
LPガス	m <sup>3</sup>	169,567	186,965	188,625	181,356
				+ 0.9%	△ 3.0%
都市ガス	m <sup>3</sup>	148,494	132,714	180,535	128,733
				+ 36.0%	△ 3.0%

項目	単位	基準年度 (H26年度)	将来推計値 ※1	平成29年度	目標年(H30年度) 《目標値》
				増減率 (対将来推計値比)	目標削減率 (対将来推計値比)
天然ガス	Nm <sup>3</sup>	-	-	273,791	-
				-	-
温室効果ガス 排出量	t-CO <sub>2</sub>	5,713	5,484	6,088	5,313

※1 将来推計値とは、地球温暖化係数の改正に伴う増減分と施設の増減に伴うエネルギー使用量の増減分を見込んで算出された数値です。

### 排出活動②：他人から供給された電気の使用

・電力使用量の最も多い施設は、島田市民病院の7,362,691kWhで全体の約26%を占めています。平成29年度は、川根温泉においてメタンガス発電によるコージェネレーションシステムを稼働させたことにより、川根温泉ホテルで使用する電力の約6割が発電で賄われ、大幅に使用量を削減することができました。その影響により、全体での使用量も大幅に削減されました。

項目	単位	基準年度 (H26年度)	将来推計値	平成29年度	目標年(H30年度) 《目標値》
				増減率 (対将来推計値比)	目標削減率 (対将来推計値比)
電気	kWh	29,270,393	29,046,772	28,216,317	28,175,272
				△ 2.9%	△ 3.0%
温室効果ガス 排出量	t-CO <sub>2</sub>	15,016	14,940	13,695	14,490

### 排出活動③：一般廃棄物の焼却

・一般廃棄物の焼却に伴う二酸化炭素の排出については、一般廃棄物に含まれる炭素分が酸素と結び付き二酸化炭素となって排出される量が該当します。平成29年度については、平成26年度と比較して、焼却処理量に含まれる廃プラスチックの含有率低かったことが影響し、二酸化炭素排出量が大幅に減少する結果となりました。ただし、この結果は事業者や住民から搬入される焼却物に起因するので、次年度以降の傾向を注視する必要があります。

項目	単位	基準年度 (H26年度)	平成29年度	目標年(H30年度) 《目標値》
			増減率 (対平成26年度比)	
田代環境プラザ 焼却処理量	t	31,313	30,179	29,996 (※2)
			△ 3.6%	
クリーンセンター 焼却汚泥量	t	1,630	1,725	— (※3)
			+ 5.8%	
温室効果ガス 排出量	t-CO <sub>2</sub>	14,881	9,780	14,285

※2 田代環境プラザ焼却処理量については、島田市一般廃棄物処理基本計画の計画内容に基づき削減目標を設定しています。

※3 クリーンセンター焼却汚泥量については、し尿処理により発生する汚泥のため削減目標は設定していません。

#### 排出活動④：公用車の使用

- 公用車の走行及びカーエアコンの使用台数にはついては、将来推計値より削減が見られましたが、温室効果ガス排出量については目標に届かない結果となりました。この理由としては、走行距離から算出する際に車種別により排出係数が異なるため、距離が減少しても温室効果ガス排出量は増加してしまうことがあります。平成29年度については、特殊用途車の走行距離が増加したため、温室効果ガス排出量の削減には至りませんでした。また、教育委員会が金谷庁舎からプラザおおりに移転したことを機に、車検などのタイミングで廃車やリース契約の解除をしたため、カーエアコンの使用台数は減少しています。

項目	単位	基準年度 (H26年度)	将来推計値	平成29年度	目標年(H30年度) 《目標値》
				増減率 (対将来推計値比)	
公用車の走行	km	1,973,991	1,760,002	1,749,743	1,760,002(※4)
				△ 1.0%	
カーエアコン 使用台数	台	291	264	245	264(※4)
				△ 7.2%	
温室効果ガス 排出量	t-CO <sub>2</sub>	19	14	17	14

- ※4 公用車の使用については、巡回等のサービスに直結する要素も多いため、目標設定にあたっては、地球温暖化係数の改正に伴う増減分と平成28年度からの消防本部の広域化に伴う公用車所有台数減少分を見込んだ将来推計値を算出し、現状維持を目指しています。

#### 1-3 省資源の推進

- 温室効果ガスの削減に直結する取組ではありませんが、省エネルギーの推進とともに、省資源等の環境配慮活動を推進することにより、間接的に温室効果ガスの削減に寄与します。環境負荷を低減させるための取組として、次の項目にも目標を定めて取り組んでいます。

項目	単位	平成28年度～ 平成30年度の 目標	平成29年度 実績値	《参考》 前年度値
水の使用量	m <sup>3</sup>	前年度比1%以上削減する	417,736 △ 3.7%	433,893
用紙の使用量 (総務課集中管理分)	枚	A4版換算 5,808,750枚以下 (H26実績値) に抑える	7,325,000 + 26.1%	5,943,750
燃えるごみ(一般廃棄物)の 排出量(庁舎のみ)	kg	前年度比1%以上削減する	569,674 △ 7.1%	613,386
グリーン購入率	%	90%以上を維持する	91.4	95.3

- 平成29年度の実績については、用紙の使用量以外は目標を達成している状況です。平成29年度の用紙使用量が増加した理由については、教育委員会の移転による総務課集中管理分の使用量が増えた点、選挙の実施による用紙の使用が挙げられます。今後も、資料の簡素化や作成部数の適正化について、各職員が意識し、毎年度目標の達成ができるように目指していく必要があります。